

研究機関：広島大学

研究課題名	食道癌治療症例における治療効果・有害事象・合併症・予後に影響する因子の検討
研究責任者名	広島大学 原爆放射線医科学研究所腫瘍外科 教授 岡田 守人
研究期間	2020年10月12日(倫理委員会承認後)～2030年3月31日
対象者	2000年1月から2020年7月の間に、広島大学病院消化器外科で治療を受けられた食道癌患者さんを対象とします。
意義・目的	<p>食道癌に対する治療の中心は手術ですが、頸・胸・腹部の3領域にまたがる操作が必要となる高侵襲な手術です。また進行食道癌に対しては術前や術後補助療法を含めた集学的治療が行われます。このため、補助療法の効果、術後合併症、予後を予測し、適切な術式や集学的治療を選択する必要があります。さらに手術の代替療法として化学放射線療法がおこなわれることがあります。手術と比較した治療効果は明らかではありません。化学放射線療法においても治療効果および有害事象を治療前に予測できれば、個々に最適な治療を選択することが可能になります。</p> <p>本研究では、食道癌症例の様々な治療前・術中・術後因子を解析し、治療効果、有害事象、術後合併症、予後との関係を解明することを目的とします。新たな治療効果予測因子、有害事象予測因子、合併症予測因子、予後予測因子を明らかにすることにより、適切な術式や集学的治療の選択が可能となり食道癌の個別化治療、治療成績の向上につながります。</p>
方法	<p>本研究は全て診療録（カルテ）情報など既存資料を用いて行います。</p> <p>カルテから転記する内容は臨床病理学的背景（年齢、性別、血液検査結果、内視鏡検査結果、CT検査結果、PET検査結果、癌進行度、術後補助療法の有無、治療効果、手術時間、出血量、術後合併症、病理結果など）、予後（再発の有無、再発形式、生存の有無など）です。個人が特定出来る情報は転記しません。また診断、治療のために採取された組織標本を追加で免疫染色検査などを行うことで、病理結果についてより詳細な情報を取得させていただきます。</p>
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 岡田 守人
個人情報保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞1-2-3</p> <p>Tel: 082-257-5869</p> <p>広島大学病院 呼吸器外科 教授 岡田 守人（研究責任者）</p> <p>消化器外科 講師 浜井 洋一（担当者）</p>